

Case 40-2014

A 57-Year-Old Man with Inguinal Pain, Lymphadenopathy, and HIV Infection

(N Engl J Med. 2014 Dec 25;371(26):2511-20)

【患者】 57 歳男性 【主訴】 左鼠径部痛とリンパ節腫大

【現病歴】

10 年前から左側優位の鼠径ヘルニアがあり、間欠的な膨隆はあったものの、容易に還納できていた。受診 3 か月前から膨隆に伴う疼痛が強くなり、3 週間前から膨隆が拡大。同時期から間欠的な発熱と寝汗を自覚した。受診 1 週間前にはヘルニア付近に圧痛を伴う固いしこりを自覚。受診前夜に口腔温で 38.1°C の発熱を認め、翌朝救急外来を受診した。

受診時の左鼠径部の疼痛は 3/10 で、悪寒、嘔気、嘔吐、腹痛はなし。8 年前に CD4 陽性リンパ球数が 66/mm³ に低下した際に HIV 感染症の確定診断を受けており、以降抗 HIV 療法 (ART) が開始されている。直近の検査は受診 2 カ月前で、HIV-RNA は検出限界以下、CD4 陽性リンパ球数は 250/mm³ だった。

【既往歴】 8 年前に左下腿と口蓋にカポジ肉腫を生じ、ブレオマイシンで軽快を得た。伝染性軟属腫、肛門部の異形成あり。9 年前に診断された肺 *Mycobacterium avium complex*(MAC) 症に対しては 18 カ月間にわたる治療が行われた。ニューモシスチス肺炎、口腔カンジダ症、眼窩周囲の蜂窩織炎、クリプトスポリジウムによる下痢症の既往あり。3 年前には脂肪肝もしくはアルコール性が疑われる一過性肝障害が認められた。トキソプラズマに対する IgG 抗体は HIV 感染症の診断の際に陰性。8 年前および 5 年前に行った Rapid Plasma Reagin (RPR) 法による梅毒血清反応も陰性。その他の性感染症の既往はなし。

【服薬】 エムトリシタビン、テノホビル、リルピビリン (3 剤ともエイズ治療薬) を服用中。

【アレルギー歴】 ST 合剤による溶血性貧血を発症。

【生活歴】 非同性愛者で、離婚後、現在の女性パートナーと同居中。パートナーも HIV 陽性であり ART を受けている。直近の性交渉は 2 年前に現在のパートナーとであり、コンドームは使用していた。喫煙歴 30 年。飲酒は毎日 1-2 本。違法薬物の使用歴なし。建設工場勤務。22 歳のネコを飼っており、猫用トイレの交換などをしていた。

【渡航歴】 6 カ月前にオクラホマへの旅行歴あり。

【家族歴】 欧州系白人で、父親に冠動脈疾患、母親に線維筋痛症あり。兄弟や実子は健康。

【入院時所見】 体温 36.8°C、血圧 155/79mmHg、心拍数 82/分、呼吸数 18/分、SpO₂ 100% (room air)。腹部は軟で、圧痛や膨満なし。左側優位の両側鼠径ヘルニアを認めるが容易に還納可能な状態であり、鼠径管にはわずかに圧痛を認める。左鼠径部に軽度圧痛を伴う最大径 3cm のリンパ節腫大が 3 つあるが、それ以外正常。血小板数、赤血球数、腎機能、凝固能、電解質、脂質とも正常。その他の検査データに関しては Table 1 に示している。

腹部・骨盤の造影 CT (Figure 1) では左総腸骨、左外腸骨および左鼠径部領域に多数のリンパ節腫大を認め、骨盤前壁の脂肪織混濁を認めた。左外腸骨リンパ節には壊死が疑われる短軸 2.4cm の低吸収域あり。左鼠径リンパ節にも短軸 2.2cm の、傍大動脈リンパ節および右鼠径リンパ節は同 1cm 未満のリンパ節を認めた。両側の鼠径ヘルニアは脂肪を含んでおり、左は 3.8cm、右は 1.8cm。肝臓は 22cm に及ぶ腫大があり、

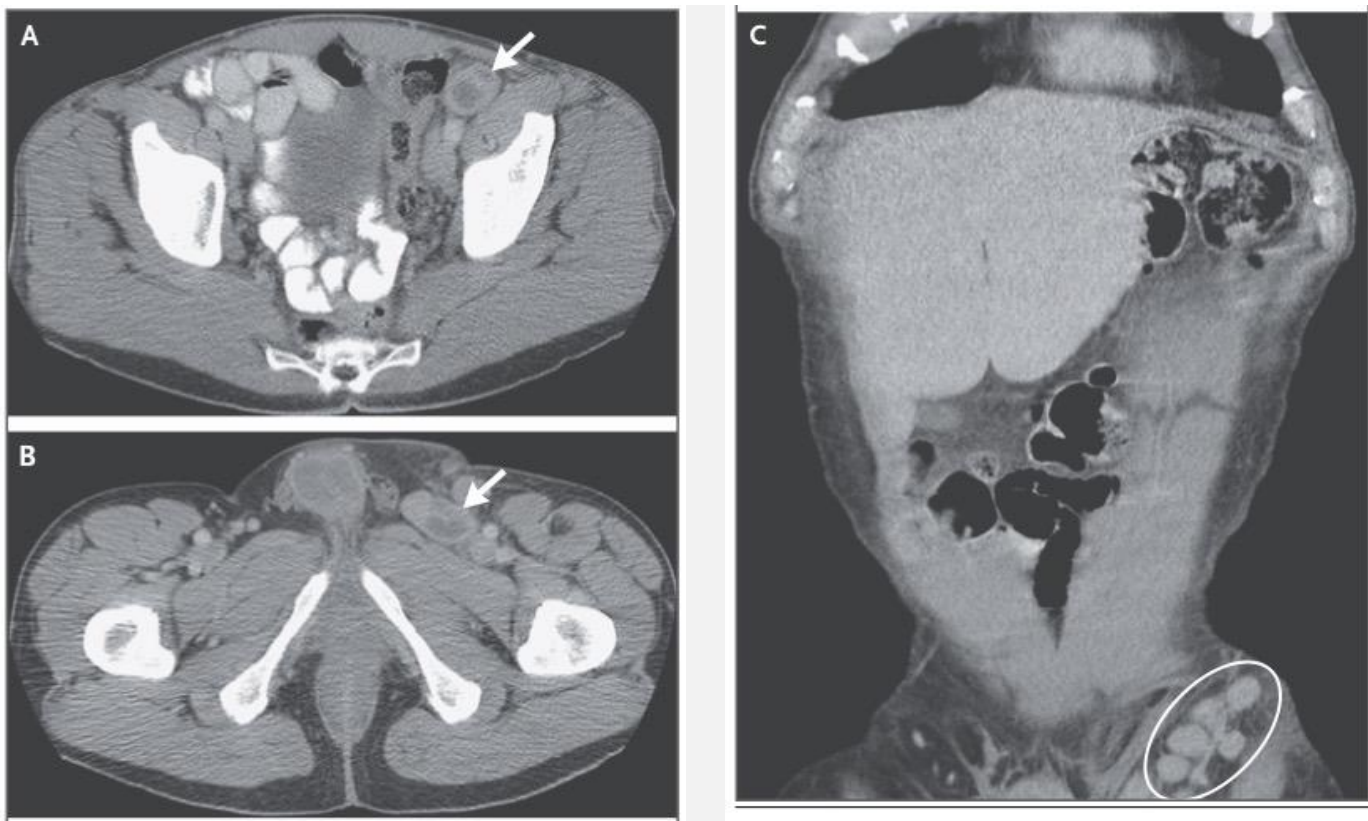
下端は腸骨稜下に達していた。脾臓も 12.8cm と腫大が認められた。左腎には腎石灰化を認めた。腸管の絞扼や閉塞所見は認められなかった。

入院後、診断的手技が行われた。

Variable	Reference Range, Adults†	On Presentation	Hospital Day 2
Hematocrit (%)	41.0–53.0 (in men)	37.6	38.0
Hemoglobin (g/dl)	13.5–17.5 (in men)	12.6	12.8
White-cell count (per mm ³)	4500–11,000	12,100	9600
Differential count (%)			
Neutrophils	40–70	83.9	78.7
Lymphocytes	22–44	8.3	11.5
Monocytes	4–11	6.8	8.0
Eosinophils	0–8	0.6	1.3
Basophils	0–3	0.2	0.2
Glucose (mg/dl)	70–110	144	

* To convert the values for glucose to millimoles per liter, multiply by 0.05551.
 † Reference values are affected by many variables, including the patient population and the laboratory methods used. The ranges used at Massachusetts General Hospital are for adults who are not pregnant and do not have medical conditions that could affect the results. They may therefore not be appropriate for all patients.

Figure 1. Abdominal CT Scans.
 Axial (Panels A and B) and coronal (Panel C) images from CT scans that were obtained after the administration of oral and intravenous contrast material show lymphadenopathy in the left iliac and left inguinal regions. An enlarged lymph node in the left external iliac region (Panel A, arrow) measures 2.4 cm in the short-axis dimension, and a partially visualized lymph node in the left inguinal region (Panel B, arrow) measures 2.2 cm in the short-axis dimension. Both of these nodes contain an area of hypodensity consistent with necrosis. Other enlarged lymph nodes were also seen in the left inguinal region (Panel C, ellipse), as was enlargement of the liver (Panel C).



- Problem list を挙げて下さい。
- 鑑別診断および必要な検査を挙げて下さい。